

龍谷大学社会科学研究所共同研究「アフリカン・イニシアティブとその展望」  
研究会（10月4日 於：龍谷大学） 報告レジュメ

## アフリカの国家観に関する一考察 リュック・シン ジュン著 『よその国家』におけるアフリカ国家観 の展開

東海大学非常勤講師  
日本学術振興会特別研究員  
慶応義塾大学院  
加茂省三

### 1. はじめに

#### (1) 本報告のねらい

仏語圏におけるアフリカ国家研究の展開を明らかにし、シンジュンの『よその国家』を位置づける。

シンジュンによる『よその国家』を明らかにする。

『よその国家』では、カメルーンが分析の対象となっているが、単なるカメルーン国家研究ではない。むしろアフリカ国家研究へ一石を投じることを念頭においた研究。

#### (2) 著者紹介

リュック・シンジュン (Luc SINDJOUN)

カメルーン・ヤウンデ第二大学教授 パリ政治学院等で客員教授

フランス政治学教授資格保有 アフリカ政治学会会長 (2001年6月～)

訪日経験あり (国際問題研究所主催シンポジウム)

### 2. フランスにおけるアフリカ政治学「第3の波」と国家研究

#### (1) POLITIQUE AFRICAINE 誌の刊行 (81～)

「アフリカ政治：上と下 (La politique en Afrique noire : le haut et le bas)」

アフリカ政治学「第3の波」の開始

第1の波：政治発展論 第2の波：従属論

国家と社会が研究対象：統治メカニズムとそれに対する異議・抵抗

社会の復讐 (歴史) 権威主義的政治秩序

バイヤール『アフリカにおける国家 (L'Etat en Afrique)』

アフリカ国家に関する歴史的社会学：アフリカ社会の固有の歴史を明らか

リゾーム国家：ネットワーク型 アフリカ社会と脱植民地以後の制度

植民地化以前の社会を絶対視 アフリカの内因性

メダール「ネオ・パトリモニアル国家」(1990)

(2) 輸入国家論

バディ 『輸入国家 (L'Etat importé)』 (1995)

バイヤール 『接木国家 (La greffe de l'Etat)』 (1996)

非西欧国家による西欧国家 (制度・文化) の輸入

3. 『よその国家』におけるシンジュンの国家観

(1) 『よその国家』における分析手法

ポストモダンの思想・哲学の影響を受けた

普遍的な国家モデル(真理)の提示ではなく、国家の構造や形成過程：分析

「第3の波」の延長上

アフリカからの視点 (アフリカ中心主義に陥ることなく)

西欧中心主義に基づく抽象的国家 = 幻想

(2) 「よその国家」とは

「よその国家」というカテゴリー 平凡

国家：地方 ( 中央 (政府)) の争点を考慮するアクターの行為に依存

中心 / 周辺 = 中央 / 地方 = 国家 / 社会

「よその国家」は、単なる「輸入国家」ではない。

カメルーン：国家 独・仏・英からの輸出品

単なる国家の現地的再発明・社会化でもない

バイヤール 現地政治アクターの行動を絶対化

(3) ケーススタディとしてのカメルーン国家

カメルーン国家の形成過程

政治統合：中心から周辺への一方通行的な動き

社会：抵抗、破壊

社会の国家化と国家の社会化 永続的

起源：植民地支配 = カメルーン国家の鋳型

地方の発生

植民地支配のカメルーン領内の拡大(中心 周辺) = 独立後の国家形成

仏モデル：中央 (ドゥアラ、ヤウンデ) 地方

英モデル：中央 (ナイジェリア) 地方

属領化 = 政治浸透 相互作用による

直接：中央権力による地方の一元化 / 間接：民主化や連邦制、地方分権

過程

エリート：「行政の模倣主義(mimétisme administrative)」ではなく、「行政への順応主義(conformisme administrative)」 接木国家

アイデンティティーおよび民族意識：

新たな行政区域や地方社会の国家化において形成・発明

国家と社会

超越的存在としての国家の否定

国家（中央）による社会（地方）への覇権（ノーマライゼーション）

社会（地方）による秩序（中央）の破壊（ペリフェライゼーション）

未完成な国家による支配 国家 / 社会 × オルタナティブ

多元的社会：民族と言語（仏・英）

国家の枠内で 野党 SDF の台頭 分離運動という目的の希薄化

過程

力による中央の基準への順応

イデオロギーやアイデンティティー、人事をもちいての中央の基準への順応

#### 4. おわりに

「よその国家」は、欧米で盛んなアフリカ国家研究に対する、アフリカの視点による警鐘。

ポストモダニズム的分析の修正。パースペクティブよりも分析(解体と再構築)。

過度の解体 = 適切な分析？

Chabal & Daloz, AFRICA WORKS

課題：「よその国家」の受け入れ可能性